



號一十四第 月二年六十和昭 行發日十 行發日五・回一月毎 錢五金部一價定誌本一 錢拾六金(共稅)年一 一才 田杉 一ノ七西座區區京市京東 社信通盟同 所行發

報道報國所感

編輯局長 松本重治

最近は戰陣訓だとか警察訓練だとかが出たが、また官吏全體のための官場訓も噂されて居る。萬民翼賛の立場から職分奉公を眞面目に考へるとき、各自の職域に就いて、反省を新にするのは全く日本人の自然的な姿である。翼賛會が議會で違憲論で叩かれ、豫算削減で痛めつけられやうと、國民大衆が、各自の職域において眞面目なる反省の下に、たくましく立ち上るとき、大政翼賛運動の前途は、まことに、洋々たるものがあるといはねばならぬ。

同盟に自己の職域をもつわれわれも、時局の重大化とともに、日に日に、その職分奉公の責任が加重されて行くのを自覺せねばなるまい。去年九月に召集された支社局長會議の際に、わが古野社長は、「吾等の使命は報道報國にあり、吾等の任務は正確迅速にあり、吾等の精神は大團結にある」と説かれた。同盟社員として「同盟社員訓」とでもいふべきものを考へるとき社長の掲げられたこの三大訓律ほど適確なものはない。社長は同時にこの三大訓律を最も簡明に、而も最も適切に説明せられたのであつて、更に蛇足を加へる要は毫もないのであるが、同盟の日常業務の實際における経験から一、二の所感を左に述べたいと思ふ。

先づ「報道報國」であるが、社長の説明にもある如く、これはわが同盟通信社の目的を規定したものである。われわれ同盟社員が報道の業に従ふのは國家のためであるといふことは、いふ迄もない。しかしながら「報道報國」といふ文字が、われわれの胸を打つのはこの四字こそは、この國史未曾有の困難に際したるわれわれとして、各自の報國の方途を報道事業において見出すのだといふこと、即ち、報道の事業を通じて國に報いんとする三千社員の決意と情熱とを現はすからではあるまいか。「報道挺身隊」の映畫を見て眼頭の熱さを覺えざる同盟社員が一人だつて考へられるだらうか。

この決意と情熱とを有すること、同盟社員たる資格のなかで、最も根本的のものである。大同盟の機構のなかで、自己の職域が、本社にあると地方にあると、支那にあると外國にあるとを問はない。乍然、暫く胸に手を當てて靜に考へて見るとき、現實の實踐においては、この報道を通じて國家に報いんとすることは、決して生易しいことではないことを痛感せしむには居られない。既に半生を報道事業に捧げられた社長は、この點をはつきりつかんで(同盟通信報昭和十五年十月十日發行二頁參照)報道報國の「實踐」が「伸々生やさしいことでない」と「その苦しい仕事を敢然として正しきに就く決意を以てやつて行く」とが、吾々の麗はしき任務なのである」と説かれて居る。わが祖國にとり、内外の時局が今日ほど錯雜困難を極めたことは、嘗つて無かつた。報道機構が占むる地位は益々重要となりつつあるは言を俟たない處であるが、その重要度を増しつつあるわが國の報道機構の中にあつても、わが同盟は、益々その中樞的地位に置かれつつあるのである。特に、編輯部面の仕事にたつさはるものにとつては、かかる重大なる責任を如何にして果し得るかにつき、日夜心膽を碎かざるを得ないのだ。

相濟むものではない。日本の現狀は政治、經濟、文化の各方面において根本的の革新を要する。かかる現狀を齎らしたことに對しても、報道人は充分の反省を要求されるのであるが、あるべき日本の眞の姿を具體化せんとする革新の運動において、報道人は更に大なる責任を感ぜざるを得ない。

事實の報道は「正確迅速」にやればよい。「迅速」は問題なしとして、さて事實の正確さとは何だ、社會が比較的安定を保つて居る場合は、事實に對する價值批判は社會人の共通の常識であり、公倍数的のものである。これを特にとり上げなくても、事實の社會的性格は、その所謂「正確」なる、即ち單に事實に即した寫述によつて充分にその報道の責任を果し得るのである。しかし、今日のやうな變動期の社會にあつては事實の正確なる報道と同様に、或はそれ以上に、その事實に對する價值批判が重要となつて来る。今度の議會記事に對する同盟の態度は後者の場合である。或る政界の長老が、「新報も、今度はどうも餘り翼賛會の提灯を持ちすぎで、今では困つて居やしないかね」といつたとき、筆者は「イヤ、提灯の持ちすぎなどはやつてゐない。あれで丁度いいんです」と、言下に答へたのであつた。

よりしかたがないのである。報道報國難——を嘆する暇に、精出してこの新しい正確さに對する自己頭腦のアンテナを研ぎ澄すべきである。一つのニューズを追ひかけるときにも、全體的歴史的立場からする價值批判への配慮を怠らぬ氣持の餘裕を持つべきではなからうか。

「新報も、今度はどうも餘り翼賛會の提灯を持ちすぎで、今では困つて居やしないかね」といつたとき、筆者は「イヤ、提灯の持ちすぎなどはやつてゐない。あれで丁度いいんです」と、言下に答へたのであつた。豫算總會における空氣等も新報報道の多くは、寫眞的正確さを持つたものではない。寫眞的正確さの代りに國家意思的又は國民的正確さでもいふべきものが、報道を規律するのである。個別的、市民的、寫眞的、刺戟的正確さの代りに綜合的、民族的、批判的歴史的正確さが登場するのである。かくして報道人の責任と苦勞とが増すばかりであるが、何としてもやり切る

盟學寮は一月十三日より二月十五日迄朝の一般行事に加へて寒稽古を實施、霜に凍る曉の五時半エト、エートの掛聲も勇しく木劍體操に、駈足に非常時局を背負ふ第二國民の鍊成に大童である。人員點呼の後、寮生は學寮前の廣場に整列して宮城を遙拜し「國本に培ひ」の青少年に賜つた勸語を聲高らかに奉誦する。そして我等の責務を痛感し國難に處する覺悟を愈々固くするのである。

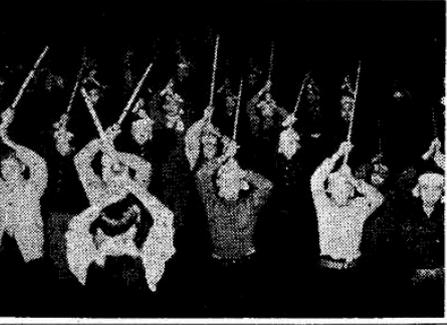
同盟互助會收支算報告書

昭和十五年一月一日より同十二月三十一日迄における同盟互助會の收支算は左の通りとなりましたから、本同盟通信報を以て會員各位への報告に代へます

△收入の部	九、七〇四・七二
前期繰越金	五三、七四九・六一
同會員出金	一三、八六五・七四
同會通信社より補助金	五〇・〇〇
寄附金	二五八・三五
預金利息	七、六二八・四二
合計	七、六二八・四二
△支出の部	一、九二〇・〇〇
結婚祝(七三件)	一、九二〇・〇〇
出生祝(二四〇件)	六、一六〇・〇〇
應召及入營祝(二二件)	一、七七五・〇〇
退社(八五件)	五、四八四・〇〇
病氣及災害見舞(二二一件)	八、四四〇・〇〇
死亡香料(〇〇件)	一、一七〇・〇〇
配偶者香料及見舞(四三件)	二、〇〇〇・〇〇
家族香料及見舞(二三三件)	八、三七〇・〇〇
送金雜費	九〇・六六
計	三六、〇〇九・六六
△十六年度へ繰越金	四一、六一八・七六

昭和十六年二月 同盟互助會 會長 古野伊之助

學寮の寒稽古



本社青少年從業員約八十名を收容して身心の鍛錬に努めてゐる同

空爆下の英國

前ロンドン特派員

小寺 巖

爆撃に暮れ、爆撃に明けけるロンドン最近の生活は凄惨だ。開戦以來昨年九月迄の一ヶ年ロンドン市内は比較的平静で、殆んど獨逸の影を見ることも稀れであつたが、九月以來といふものは晝夜の別なく獨逸の空襲は一日として缺かされた日はない。それも一機、二機の少数で来るかと思へば、數百機の大編隊で大舉爆撃を敢行する日もある。何れにせよ歴史に見ざる大規模の帝都空襲である。

この首都に對する連續的空爆は英國の人心攪亂及び經濟生活破壊による國內戦線の崩壊を目標としたものであることは明瞭である。

最近の英國商船の獨逸潜水艦及び飛行機による撃沈数は英政府の發表によれば一週十萬噸に上つて居る。即ち一ヶ年五百萬噸の割合で撃沈されて居るが、英國の造船能力は年二百五十萬噸に達して居るので、撃沈される船舶の半數は補充されて行くことになる。さうすると總噸數 千萬噸の商船隊を擁する英國としては、この程度の撃沈だけでは、今後二年や三年この状態が繼續しても海外からの物資供給には大して痛痒を感じない譯である。ところが今後獨逸のUボート及び爆撃機の海岸における活躍は一段と活潑を加へ、撃沈数は漸増すると思ふなければならない。

同時に獨逸空軍の活躍による英國内の鐵道、倉庫等配給機關の混亂、港灣施設の破壊、造船所の能力低下等を考慮に入れる時は、物資の補給は今後困難の度を増すことは必然である。

一方政府の支出は急テンポを以て増大し開戦初期には一日三百萬磅であつたものが今日では千五百萬磅に急増し、今後益々増大の傾向を示して居る。此ため通貨流通高は著しく膨脹し、物資と通貨とのバランスは愈々以て均衡を破られ、當然インフレを招來して居る。今後このインフレは益々拍車をかけられる事必至で、これが一朝悪性インフレに爆發したが最期、收拾し能はざる混亂に陥り國內から崩壊の危機に瀕するであらう。

かくの如く目下の獨逸の對英作戦は國民の士氣沮喪を狙つた爆撃と、物資の補給路隔絶を企圖した

封鎖戦術とに集中されて居るが、その裏面では上陸作戦決行の機を覗つて着々準備を進めて居るものと解される。さうしてこの爆撃と封鎖によつて英國が手を上げざるに成れば大きな犠牲を拂つて迄上陸を企圖する必要はないが、もしどうしてもこれだけでは英國が参らなるとの見透しをつけた時には上陸資材の整備と相俟つて愈々英本土上陸を執行するのではなからうか。さうしてこの敵前上陸は歐大陸における獨逸の戦績と、イギリス海峡の後方連絡に與へる障害を克服するに足る三千のユンカー輸送機とを以てすれば決して不可能事とはいへないであらう。

が、最早、昔日の元氣はないやうです。今、パリの人氣記者は何といつてもウーヴルのマルセル・デアでせう。非占領地帯から眞先にパリ歸還を許されたのが、反ナチ宣傳で迷途を馳せてゐたタプイ女史の據つてゐたウーヴル紙であつた事自身、同紙の轉向振りを物語るものでせう。デアの獨佛協調による歐洲の新秩序論は多數のフランス人に白眼視され乍ら、尙、今日フランスに見る唯一の建設的議論として、各方面から注目されてゐます。パリにあつた諸通信社

が、最早、昔日の元氣はないやうです。今、パリの人氣記者は何といつてもウーヴルのマルセル・デアでせう。非占領地帯から眞先にパリ歸還を許されたのが、反ナチ宣傳で迷途を馳せてゐたタプイ女史の據つてゐたウーヴル紙であつた事自身、同紙の轉向振りを物語るものでせう。デアの獨佛協調による歐洲の新秩序論は多數のフランス人に白眼視され乍ら、尙、今日フランスに見る唯一の建設的議論として、各方面から注目されてゐます。パリにあつた諸通信社

かしてゐます。同盟支局は開店休業の態で、休戦前、彫刻家の高田博厚が遊びに来て、黒板に描きながつて行つた裸女群像が、そのまゝ消されもせず、故岩永社長の高眞の下で無言の踊りを踊りつづけてゐます。入江君も日に一回は必ず事務所に顔を出しますが、大部

の時間は自宅で勉強の合間支那料理の調理に費してゐます。本屋は稀れになつて、さぞこぼしてゐる事せう。お酒は今では容易に手に入りませんが、あの陶然とした童顔だけは、忘れないうに持つてかへる事と思ひます。

聖戦から歸りて

政經部

中島 幸基

生きて良し、死して尙良し、唯一筋に君國に酬ひんと考へて來た三ヶ年半の戰場生活から、足かけ五年振りに、母國の土を踏み、東京の空を眺め、本社に歸つて來て、今の私は量り切れぬ感慨で胸一杯である。そして、私の出征中留守宅を守つていた社及び社長外先輩各位には勿論、北中・南支や滿洲等の各地で色々お世話になつた各支社局の方や特派員の方々に、心から感謝してゐる。その數々の御厚情こそ私の戦地における戦力の糧であり同志の泉となつた。十二年の七月末事變勃發と共に應召した私は、その陣中生活の間に、太原・石家莊・天津・濟南・青島・徐州・廣東・南寧・上海等の各支社局に立寄る機會を得、又北は滿洲から南は佛印の涯の各地で社の特派員の諸兄とお目にかかれて、言葉や筆に言ひ現せぬ厚い御親切を受けて來た。それは社友として又戦友としての、深く温い心の共感でありいつまでも私の心に刻み込まれた深い感銘であると共に、今日五年振りに復社して見ると、戦争の洗礼を経た一つの新しい「同盟精神」を私の中に作り上げてくれた事を知つた。どの前線でも各支局や特派員の活躍は實に目覚ましいも

が、最早、昔日の元氣はないやうです。今、パリの人氣記者は何といつてもウーヴルのマルセル・デアでせう。非占領地帯から眞先にパリ歸還を許されたのが、反ナチ宣傳で迷途を馳せてゐたタプイ女史の據つてゐたウーヴル紙であつた事自身、同紙の轉向振りを物語るものでせう。デアの獨佛協調による歐洲の新秩序論は多數のフランス人に白眼視され乍ら、尙、今日フランスに見る唯一の建設的議論として、各方面から注目されてゐます。パリにあつた諸通信社

今の處、私は編輯局の机の一隅に坐つてゐる丈で何一つ判らず、騒然と混濁する激しい局内の情景を眺めてポツとしてゐるが、この室の一日中耳鳴りのする様な騒音の、どんな小さい波長でも、それはそのまゝ、國家の動き、國力の伸張に緊切な關係のある事が、今は三年半前より遙かに明かに、又身近く感じられる。これは私が第一線で戦闘を續けたり、又治安肅正に従事してゐた時、〇〇發同

パリの新聞

前グイシー特派員

井上 勇

パリの新聞の話でもしませうか昔、無數にあつた新聞は今僅かにル・マタン、パリ・ソール、ルーヴルの三紙しか残つて居らず、マタンを除いて他の二紙はすつかり陣容をかへてしまひました。新しい日刊紙で「レ・デルコエール・ヌーヴェル・ド・パリ」と「ラフランクス・オー・トラヴァイユ」があり

が、最早、昔日の元氣はないやうです。今、パリの人氣記者は何といつてもウーヴルのマルセル・デアでせう。非占領地帯から眞先にパリ歸還を許されたのが、反ナチ宣傳で迷途を馳せてゐたタプイ女史の據つてゐたウーヴル紙であつた事自身、同紙の轉向振りを物語るものでせう。デアの獨佛協調による歐洲の新秩序論は多數のフランス人に白眼視され乍ら、尙、今日フランスに見る唯一の建設的議論として、各方面から注目されてゐます。パリにあつた諸通信社

かしてゐます。同盟支局は開店休業の態で、休戦前、彫刻家の高田博厚が遊びに来て、黒板に描きながつて行つた裸女群像が、そのまゝ消されもせず、故岩永社長の高眞の下で無言の踊りを踊りつづけてゐます。入江君も日に一回は必ず事務所に顔を出しますが、大部

今の處、私は編輯局の机の一隅に坐つてゐる丈で何一つ判らず、騒然と混濁する激しい局内の情景を眺めてポツとしてゐるが、この室の一日中耳鳴りのする様な騒音の、どんな小さい波長でも、それはそのまゝ、國家の動き、國力の伸張に緊切な關係のある事が、今は三年半前より遙かに明かに、又身近く感じられる。これは私が第一線で戦闘を續けたり、又治安肅正に従事してゐた時、〇〇發同

